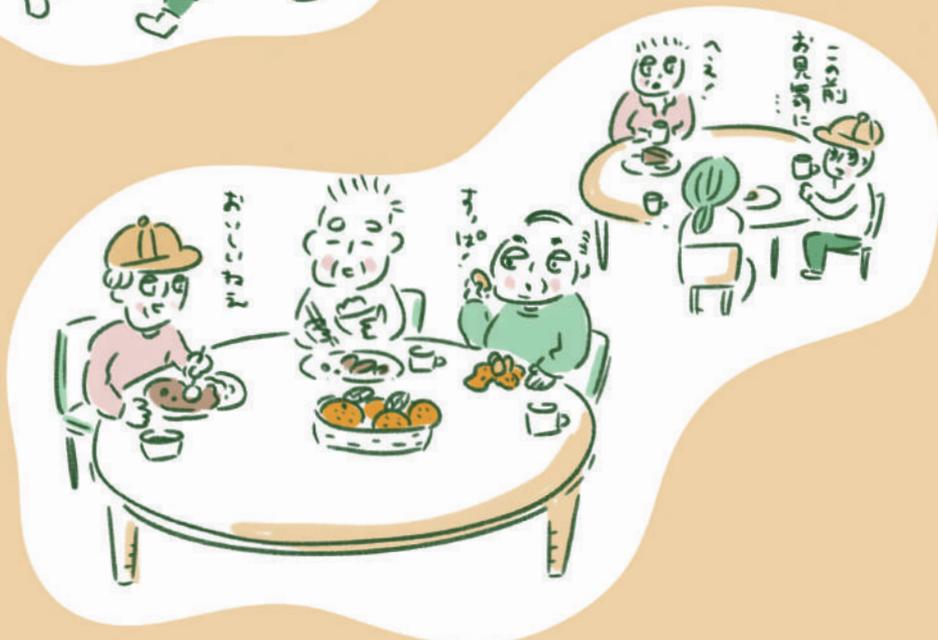


山友会 白書

2022

特定非営利活動法人 山友会
2022年度活動報告「山友会白書」



目次

p4 代表挨拶

p5 理事長挨拶

p6 特集：
第二次中期事業戦略について

p10 活動報告1：
クリニック

p12 活動報告2：
相談室

p14 活動報告3：
炊き出し・アウトリーチ

p16 活動報告4：
食堂

p18 活動報告5：
山友荘

p20 活動報告6：
居場所・生きがいづくり
プロジェクト

p22 活動報告7：
山谷・アート・プロジェクト

p24 活動報告8：
共同基地の運営

p26 会計報告

p28 イベント・講演等/
メディア掲載

p30 ご支援について



山友会白書 2022

2023年6月発行

発行者：特定非営利活動法人 山友会

企画・編集：山友会白書2022制作委員会

デザイン・イラスト：進士 遙

協力：ボランティアの皆さま、関係者の皆さま

Special Thanks: 山友会の仲間たち

ルボ・ジャン 代表挨拶



3月のある日、こんな質問をされました。「なぜ、日本人がやるべきことを、カナダ人のジャンさんがやっているんですか?」と。これは、私が山友会に関わるようになってから、時々聞かれることですが、路上生活者の問題に国籍は関係ありません。どこの国でも、大勢の路上生活者が苦しんでいます。国籍のことよりも大切なのは、思いやりがあるかどうかです。

50年ほど前に私がカトリックの宗教者として来日した際、教会関係者の方たちに「あなたは、日本に何をしに来たのか」と問われました。カトリックの宗教者は神父となって日本に派遣され、教会の司祭や学校の教師となることが普通でした。「それができないのであれば、君にやってもらうことはないよ」と言われましたが、それも当然でした。

それから、自分で自分の生きる道を探すしかありませんでした。知り合いもいない異国での生活の中で、差別されたり、無視されたりするのは毎日のことでした。路上生活を送っている人達と環境は違いますが、孤独であるという点では同じでした。

1984年、アルバイトをしていた中古車販売の会社が倒産して職を失いました。どうしたのかと途方に暮れていた時、山友会を立ち上げた当時のスタッフから声がかかりました。「ボランティアをしてみませんか」と。

その頃、山谷は日雇い労働者が集まるドヤ街でした。多くの人が肉体労働と孤独の辛さを博打や酒で紛らわしており、そして、そのままどん底に落ちていく人を多く見ました。山友会のスタッフとボランティアは、山谷のおじさん達を助きたいという気持ちで正面から向き合っていました。そして、私もそのスタッフの一員となったのですが、長い間、おじさん達と一緒にいると、意外なほど温かい人柄が伝わってきます。不器用なところがあるかもしれないけれど、長年ひとりで闘ってきたのだから無理もありません。完璧な人間は私たちを含めて誰一人いないはずです。

山友会は、これからも人に向き合って、表面的なことにこだわらず人間の内面的な部分を見つめながら、ひとりひとりの良いところを生かした共同体でありたいと思います。



大脇 甲哉 理事長挨拶

いつも山友会の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。今年も皆様に2022年度の活動報告をお届けできることを嬉しく思います。

新型コロナウイルスの感染拡大状況は2023年春になって漸く落ち着きを見せました。マスク着用が個人の判断となるなど感染対策のための行動制限も緩和され、上野や浅草では外国人観光客を目にするようになり、泪橋交差点でも外国人観光客とすれ違うようになりました。山友会前にはおじさん達が集まり、以前の賑わいが戻りつつあります。スタッフも今まで取り組んできた感染防止対策に慣れてきたことから、中止・縮小していた活動を段階的に再開していくことを考えています。

現在、山谷地域は再開発されつつあり、ドヤの廃業が増えています。その跡地にはビジネスホテルやマンションが建設されています。この地域には生活保護基準内で住める低家賃の賃貸物件が少ないため、ドヤが少なくなるといことは、今までドヤで生活してきた生活保護受給者や低所得者のような人々にとっては、住まいの受け皿が失われていくことを意味します。なかには、遠方の公営住宅に転居する人もいますが、仲間とのつながりがなくなることや、隣近所の人間関係を新たに築いていくこ

とが難しいことなどで地域社会から孤立してしまうことが少なくありません。

そして、さらに再開発が進んで山谷の街並みが変わっていくことで、山友会事務所前の路地に開かれた場をはじめ、地域のいたるところに見られたおじさん達の集える場が少なくなってしまうことも危惧されます。

おじさん達が孤立することなく、仲間とのつながりを維持するためには、皆が一緒に集える居場所と山谷地域で暮らし続けるための住まいが必要です。たとえ地域が姿を変えようとも、私たちは、おじさん達をはじめ地域から孤立し困窮した生活に追い込まれた人々の住まいと集える場を守り続けていきたいと思っています。

一方で、山友会事務所の建物は築35年を経過しており、毎年雨漏り対策や内装などの補修をしながら使用しています。さらに、階段の多い構造のため高齢で体が不自由になったおじさんにとっては不便であり、おじさん達が多く集うには手狭でもあることから、事務所の建て替えなどによって、これからの活動に必要な用地の確保を検討しています。

おじさん達の居場所と住まい、そして、山谷地域が培ってきた寛かさを守り続けるために、今後とも皆様のご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

特集

第二次中期事業 戦略について



居場所・生きがいづくりプロジェクトで制作している人形



山谷の町のあり方について意見交換するおじさんたち

1. 新型コロナウイルス感染拡大と 高齢化によって失われたつながりと 居場所を取り戻す

2020年から感染が拡大した新型コロナウイルス感染症のほか、支援対象者の高齢化などの影響によって、支援対象者が集い、つながりを深める機会が失われています。

食堂での昼食提供をはじめ、居場所・生きがいづくりプロジェクト、山谷・アート・プロジェクトなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって中止・縮小していた活動を段階的に再開することなどで失われたつながりと居場所を取り戻すことを目指します。



2. 山谷地域の変化によって失われ つつある孤立した人々の住まいと 居場所を守る

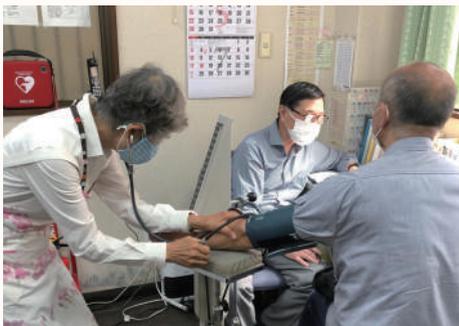
日雇い労働者や身寄りのない生活保護受給者など、社会から孤立し生活に困窮した人々の住まいの受け皿となってきた山谷地域の簡易宿泊所は、時代の変化とともに廃業が相次いでいます。さらに、地域の再開発の影響によって、そうした人々の住まいや居場所となってきた場所が失われつつあります。

居住支援法人や地域の不動産仲介業者などとの連携によって社会から孤立し生活に困窮した人々の住まいの確保を図るほか、活動用地の確保などによって支援対象者の住まいと地域社会から孤立した人々のための居場所の持続可能性を担保することを検討していきます。

そして、地域社会から孤立した人々など従来のまちづくりから排除されてきた人々とともに、山谷の町のあり方について意見交換する機会をつくることを目指します。



長年の活動を経て活動を取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえて、山友会では2017年度に2018～2020年度までの中期的な活動の方向性を「中期事業戦略」として取りまとめました。そして、中期事業戦略の「山谷地域を互いに助け合うことのできるような地域に変える」という方針のもと活動を行ってきた3年間で得られた成果や課題、中期事業戦略策定時からの活動の対象者や山谷地域の状況などの活動環境の変化を踏まえて、2022年度にそれ以降の中期的な活動の方向性を「第二次中期事業戦略（2023～2025年度）」として取りまとめました。

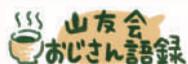


クリニックでの診療の様子

3. 孤立した人々の命と暮らしを守るために多様なニーズに応える

高齢化のほか地域の医療供給体制の変化の影響による入院治療へのアクセス困難や、メンタルヘルスをはじめとする様々な生きづらさ、社会変化や経済・雇用情勢の変化による経済的困窮など、地域社会から孤立した人々の抱える問題は多様化しています。

このように多様化したニーズに対応し孤立した人々の命と暮らしを守るために、地域の医療機関をはじめ他の生活困窮者支援団体などとの連携をさらにすすめるほか、多様なニーズを受け止めることのできる人材育成を行っていきます。



● (食堂に新設された避難はしごを見て) かつて“山猿”と呼ばれた俺には、不要だな!



山谷・アート・プロジェクトの撮影会で向島百花園へ

4. 従来の活動の手法や成果を山谷地域や社会に幅広く還元する

居場所・生きがいづくりプロジェクトや山谷・アート・プロジェクトなど独自性の強い取り組みについて、参加対象を拡げること、これらの取り組みの手法や成果を地域社会に幅広く還元することを目指します。



山友荘事務室

5. さまざまな状況の変化があっても支援が継続できる体制を確保する

日常生活支援住居施設「山友荘」をはじめ、食堂、相談室など人員不足が続いている事業のスタッフ・ボランティアを確保することが喫緊の課題となっています。

現状の事業を継続するのに必要となる人員のほか、第二次中期事業戦略に基づき実施される取り組みに必要な人的・金銭的資源を効果的に調達するために、第二次中期資源調達計画を策定します。また、資源調達にあたっては戦略的な採用広報の実施に加えて、事業の実施に必要な専門的な知識や技術を持った人材の確保が必要となる場合には、業務の外部委託も検討していきます。

また、2020年より感染拡大が継続している新型コロナウイルス感染症の影響によって事業が中止・縮小に至ることを回避するために、基本的な感染防止対策を標準化させていきます。そして、大地震等の自然災害、感染症の蔓延など突発的な不測の事態が発生したとしても、支援対象者にとって必要とされる支援を継続させる、もしくは中断した



隅田川言問橋から見える風景

としても、可能な限り短期間で復旧させるための方策や体制などを取りまとめた事業継続計画策定についても引き続き取り組んでいきます。

コロナ禍のたった数年の間でも再開発の影響などで山谷の町は大きく変わってきています。さらに、近年は山谷で暮らしてきた人々の高齢化の問題だけでなく、社会的孤立を背景としたさまざまな課題を抱えた若年層の人々の存在も目立つようになってきました。いつの時代も、山谷地域は社会から孤立した人々にとってのコミュニティ（居場所）であり続けていました。社会的孤立の問題が深刻化しつつある現代社会だからこそ、そうしたコミュニティは必要です。町が変化していても、山谷の人たちとともにつくり上げてきたこの大切なコミュニティを、地域の人々とともに育んでいきたいと思っています。

(副代表 油井)

クリニック

ボランティアの医療従事者が、主に路上生活者など健康保険証を持たない方に対して、無料診療を行っています。より専門的な治療が必要な場合には、治療を受ける上で必要な公的支援制度の利用ができるよう相談室と連携しながら活動しています。

▼ 2022 年度 山友会クリニック活動実績



山友会 おじさん語録 ● お金より命が大事だよ。人間、死ぬまでタダで使えるのはこれだけだよ。

一年を振り返って



山谷地域に住む方の高齢化と共に、クリニックの患者さんは高齢の方が多くなり、体調の相談だけでなく、受診時の付き添いや受診先への連絡、病院内での様々な手続きをお手伝いする必要のある方がいっそう増えています。「今度手術をするって言われた。よく分からないから一緒に来て欲しい」と慌てた様子でクリニックに来た A さん。少し前から動悸や息切れの症状が強くなり、検査を行った結果、心臓にペースメーカーを植え込む手術が必要とのことでした。80 歳近い年齢でも自立して生活し、普段はひとりで病院に行っていた A さんでしたが、突然手術が必要と言われて不安そうな様子でした。

手術の説明を一緒に聞き、説明の内容をわかりやすく本人に伝えると「そういうことか」と理解はしたものの、年金暮らしのため医療費のことを心配していました。ちょうど症状が落ち着いていた時期だったこともあり、「お金がたくさんかかるし必要ないよ」と手術を受けることに後ろ向きでした。そのため、医療費補助の制度について区役所や病院に問い合わせ、具体的な費用を伝えると安心してました。その後も受診に付き添い、医師の説明が理解できるように説明するなどして、納得した上で手術を受けることができました。手術後は症状が改善し、以前のように元気に過ごしています。

病院に行き慣れない方や、病院で嫌な思

いをしたこと等で受診に不安を感じている方が安心して受診できるためには、関係機関との情報共有も大切です。息苦しさや訴えて来所した B さんは、保険証を持っておらず医療機関への受診が出来ない状況でした。

タイミング悪くクリニックの医師は不在で、十分な検査もできなかったため、無料低額診療を行う診療所に相談して診療を依頼しました。診察の結果、肺炎と貧血のため入院が必要と判断されましたが、久しぶりの入院だったようで入院や退院後の生活などについて心配しているようでした。

入院先の病院に付き添い、病院のスタッフに本人の希望や心配に感じていることなどを情報共有し、こちらでも必要な支援を行っていくことを伝えました。入院している間に病院と連絡をとりながら、退院後の生活などについて相談することができ、退院後は本人の希望どおり山友会近くの簡易宿泊所で過ごされています。

受診の付き添いや関係機関との情報共有は、患者さんの安心だけでなく、医療機関が本人の普段の様子や希望を理解し、必要な医療がスムーズに提供されるためにも重要です。今後もクリニックでの診療はもちろんのこと、山谷地域で暮らす方たちが安心して必要な医療を受けられるように必要な支援を柔軟に行っていきたいと思えます。

(クリニック看護師 天方)

相談室

生活上の問題や健康上の問題に対する相談支援、ホームレス状態にあった方が、アパートやドヤ（簡易宿所）等での地域生活に移られた後の地域生活サポート（見守り、関係機関との連絡調整、緊急時対応等）を行っています。来所される方々に対してお茶や日用品も提供しており、山友会を訪れる人々にとっての憩いの場にもなっています。

▼ 2022年度 相談室 活動実績

年間相談者数 **451名**
 (うち新規相談者) **248名**
 地域生活サポート対象者数 **253名**
 延べ相談・支援件数 **8145件**

【相談・支援内容分類】

251	その他	安否確認	5,496
98	生活保護利用支援	1,973	通院支援
86	服薬管理		
71	転宅支援		
56	介護支援		
35	緊急一時宿泊		
32	金銭管理		
13	債務整理支援		
11	障害福祉サービス利用支援		
11	住所設定支援		
3	就労支援		

【路上生活者巡回相談事業 事業実績】

1. 巡回回数	医師 24回 (精神科医 12回 整形外科医 12回) 看護師 24回 (月2回) 生活相談員 48回 (月4回)
2. 巡回相談実績	<ul style="list-style-type: none"> ■延べ声掛け人数 667人 (巡回1回あたり 13.8人) ■対象者数 230人 <small>※姓名が確認できない対象者が重複して数えられている可能性あり うち、長期路上生活者66人、姓名または姓名が把握できた人数171人</small> <ul style="list-style-type: none"> ■巡回時医療相談回数 412回 (巡回1回あたり 8.6回)
3. 地域生活移行者	1人 内訳) 簡易宿所 1名
4. 見守り支援実績	生活相談等に至った人数 50人 (うち長期路上生活者 29人) 内訳) 生活相談 30人、山友会クリニックでの無料診療 20人

山友会 おじさん語録 ● 高校野球なんて興味ないよ、もう地元の奴ら負けちまってるんだから。

一年を振り返って

最近では、相談者や地域生活サポート対象者の中で精神疾患を抱えている方との出会いが増えました。50代のOさんは、幼少期に両親の離婚を機に児童養護施設で生活を送るようになり、養護学校に進学。卒業後に就職するも職場になじめず、自殺未遂を凶ってしまったことで措置入院となります。退院後は建設現場を転々としながら過ごしてきたようです。私たちと出会った時には、Oさんは統合失調症の診断を受けていました。

Oさんとは、福祉事務所から簡易宿泊所での生活の見守り依頼を受けたことがきっかけで出会いました。そして、定期的に訪問して生活上の困りごとや悩みごとを聞いたり、通院していた医療機関への通院状況を尋ねたりしながらOさんとの関係を深めていきました。訪問を重ねるうちに、山友会にも顔を出してくれるようになり、山友会に集うおじさん達とも交流が生まれたことで、部屋に閉じこもりがちになってしまうことなく生活ができていました。

しばらくは、そうした日々を過ごしていたのですが、徐々に精神疾患の症状と思われる言動が目立つようになり、Oさんと仲のよかったおじさん達や私たち相談室のスタッフも振り回されるようなことが増えていきました。やがて、仲のよかったおじさん達からの信頼を失うようになって、追い詰められたOさんはある日を境に姿を見せなくなってしま

いました。

彼の言動は一見すると他人を軽んじているように映ってしまうのですが、ゆっくりと落ち着いて話を聞いていると、自分の思いをうまく表現することが苦手で、本心とは違う言動となってしまうようでした。彼は彼で、人に誤解されたり、いさかいを起こしてしまうことに悩んでいて、心をすり減らしているような印象を受けました。

姿を見せなくなってしまう前日に、憔悴しきった様子で山友会を訪れ、話の最中に何の脈絡もなく「ほんとにありがとうございます」と発したその一言は、今までOさんと交わしてきたやりとりの中で、いちばん色濃く本心があらわれていたような気がしたことが思い出されます。

Oさんが失踪してから数か月して、突然本人から電話がありました。現在は、都外で他の支援団体などの助けによってアパートに入居し、なんとかやっていると教えてくれました。山谷での安定した暮らしには至りませんでした。無事に過ごされていて本当に安心しました。

精神疾患を患う方の社会での生きづらさを痛感した出会いでした。

(相談室 金内)



炊き出し・アウトリーチ

山友会では、隅田川河川敷で毎週水曜日にテント生活の方を訪問するアウトリーチを行い、木曜日には炊き出しとアウトリーチを行っています。多くのボランティアの方々とともに、食事の提供だけでなく生活相談や健康状態の確認なども行っています。

▼2022年度 炊き出し・アウトリーチ 活動実績



山友会 おじさん語録
 あいつ、自転車で「風呂行ってくる」って言って帰ってこれなくなって、霞が関まで行ったことがあったけど、無事に帰ってきてよかったな……。

一年を振り返って

不安定な世界情勢のため、物価、光熱費などが値上がりし、多くの人々の生活が苦しくなっています。炊き出し・アウトリーチでは、路上生活など苦しい生活におかれた方に声をかけて、クリニックでの診察や生活相談を促し、関係性を築いています。

ここ数年、若い方が炊き出しに並ぶことが増えました。ある日並んでいる人の中に、髪を染めた青年の姿がありました。一見どこにでもいる青年です。よほどお腹が空いていたのでしょうか、コロッケ弁当を渡すと、すぐ近くの階段に座り込み、そのお弁当をかき込むように食べ始めました。「美味しいですか? 来週も同じ時間に炊き出しを行います。是非来てくださいね」

こう声を掛けると、その青年は下を向いたまま、うなずきました。

路上生活を送る方たちの多くは、さまざまな事情で行き場を失って、路上生活に辿り着きます。家族との確執や職場での人間関係のもつれ等の精神的苦痛が積み重なり、人との付き合いから遠ざかってしまいます。その青年も人との付き合いが苦手だったのかもしれませんが。私は無理に話し込むことはせず、次の週も同じように声を掛けました。信頼関係を少しずつ築いていくことが大切です。

白髭橋付近のテントで暮らす人たちも高齢化し、アウトリーチでは積極的に声を掛け



て、体調や生活状況を尋ねています。冬には毛布やカイロ、夏にはTシャツや飲料水などなどを用意して、そのとき私たちが出来ることを行っています。「いつも助かるよ。ありがとうね」と感謝の言葉を聞くと、私たちも嬉しくなります。

しかし、残念なことに、今年一人の方がテント内で亡くなりました。80歳を過ぎても仕事を続け、最後まで自力で生活を続けていました。亡くなる前に私たちができなかったのかと、後悔が残りました。

炊き出し・アウトリーチには多くの方が協力してくださっています。山谷で暮らすおじさんたち、遠方から来てくれるボランティアさんたち、学校の休み期間に来てくれる学生さんたち、そして寄付をしてくださる方々。みなさまのご支援がなければ、活動は成り立ちません。

人々が平等に暮らせる平和な社会に近く年となることを願いながら、皆さまと共に取り組んでいきたいと思っています。

(炊き出し・アウトリーチ 後藤)



食堂

クリニックの患者さんや相談室の相談者の方など、山友会を訪れた人々に無償で昼食の提供を行っています。一緒に食卓を囲うことで関係づくりのきっかけにもなっており、「心もお腹もいっぱいになる」食堂を目指しています。

※ 2023年6月現在、昼食の提供は休止しています

▼2022年度 上野アウトリーチ 活動実績

年間延べ配食数 **663人**
年間実施回数 **15回**

雨が、又また
しどろもどろか
しどろもどろか
しどろもどろか

お弁当を手に
上野駅周辺
を巡回します

お弁当です！
ありがとうございます！
行ってきます

地下鉄に
居る人も多
いと思っ
たよ

あ、こちらにネコめ
見ると
若い人いたな...

おじさんたちから
情報ももらって
ありがとうございます

ネコめは
寒いから
いいかな...

注意！見
てみます。また教
えて下さい

お山友会
さん

またクリニックにも
来て下さいね

お久しぶり
です！
カイロいりますか？

コロナ禍で失われた
つながりを繋ぎたい
いきます

山友会 おじさん語録

● 最近、猫の数が減ったね。玉姫神社の猫もずいぶんいなくなった。

一年を振り返って

新型コロナウイルス感染拡大の影響で休止している食堂での昼食提供に代わって実施している「上野アウトリーチ」の取り組みは、3年目を迎えました。月に1～2回、約50食のお弁当を上野駅や上野公園で路上生活をされている方にお渡ししながら声かけをしています。

上野アウトリーチは、上野駅の正面玄関口から始まり、次いで上野駅前の歩道橋、歩道橋下のバス停、上野駅から上野公園をつなぐパンダ橋を渡り、上野公園に入ります。上野公園に入ってから、東京文化会館の周りの方にお声かけして、正岡子規記念球場の周り、そして西郷隆盛像付近を通って、カエルの噴水付近を回ってから上野駅の正面玄関口に戻ります。この取り組みを始めた頃、上野駅の正面玄関口前で路上生活をされている方が十数名いましたが、しばらくして少しずつ増えてきました。お弁当を配っていると、皆さんから「山友会の昼食はいつから始まるの?」と尋ねられることが多くあり、路上生活をされている方にとっての一食の重みを感じます。

上野アウトリーチを始めたときからお声かけしている60代後半のUさんは、上野駅歩道橋下のバス停で路上生活を送っていました。高血圧症と偽痛風のため、山友会クリニックにも定期的に受診されている方でした。上野でお会いできた時にはお弁当を渡しなが、クリニックの看護師が体調を尋ねるなどして見守りをしていました。

2022年9月初旬、上野警察署から早朝に電話がありました。深夜に上野駅構内で亡くなっているところを発見されたとの連絡でした。所持品に山友会スタッフの名刺があったので連絡してくれたようです。他に身分を証明するものをお持ちでなかったようで、本人確認が必要となった場合には協力してほしいということでした。Uさんは、8月上旬の上野アウトリーチでお会いした際に体調がよくないと話していたので、同行していたクリニックの看護師からも病院に行くよう説得していたのですが、頑なに拒まれていました。8月下旬に山友会クリニックを受診してくれましたが、あの時にもっと何かできなかったのかと悔いが残ります。

上野駅周辺にはUさんに限らず、病気を抱えながら路上で暮らす方が多くいます。「誰も路上で死なせない」という強い気持ちを持ちながら、一人ひとりと向き合い続けたいと思います。そして何よりも、再び山友会の食堂で皆と一緒に昼食を食べられるようになることを願っています。



(相談室 園部)

「体調は
どうですか？」

居場所・生きがいつくりプロジェクト

ホームレス状態にある方や地域で暮らす元ホームレスの方などが、地域の中で孤立せず自分の存在を認められる居場所と、自身の生きがいとなるような社会的な役割を手にするを目的に、そうした方々が主体的かつ持続的に参加できる居場所づくりや生きがいつくりをサポートしています。

▼2022年度 居場所・生きがいつくりプロジェクト 活動実績



● (折り紙の会で) 次のテーマは秘密です! 秘密の方が面白いでしょ? それに、お題を先に言うと、作ってきちゃう人がいるから……。

一年を振り返って

新型コロナウイルス感染症が蔓延して以降は皆で集まることがままならず、DVD鑑賞会や人形作り等の生きがいつくり活動が休止となっていました。そんな中、2022年の春にあらたに月1回のペースで「折り紙の会」がスタートしました。メンバーの中でも若手の方が、年配のメンバーに向けて、認知症予防に効果のある手先を使った動作を楽しみながら行ってもらえればと考えてくれたものです。また、人形作りも大学の看護実習生の方々が来られた際に「ぜひ一緒に人形作りを体験してほしい」との願いから臨時で開催されました。徐々に元の活動のあり方に戻り、また、新しいアイデアが活動に結びついていく兆しが見えています。

また、ここ数年で恒例となった2つのレクリエーションを2022年度も行いました。レクリエーションのひとつ、年末のお楽しみ会は「クリスマス会」として“子どもにかえる”というメンバーの考えたテーマで開催しました。ランプの神経衰弱、人生ゲーム、将棋倒し、トントン相撲等、ゲームや景品についてみんなで考え、それはまさに子どもにかえったようなワクワクする時間でした。このようなひときは、他愛ないけれど仲間がいなければ生まれない時間であり、大切な機会として守っていきたくと思っています。

もうひとつは「お花見散歩」で、今回は山谷・アート・プロジェクトと合同で開催しまし



た。急遽、どちらのプロジェクトにも参加していないおじさんが、スタッフの声掛けで飛び入り参加しました。普段はあまり他の方と交流されない方でしたが、満開の桜で花見客が集うにぎやかな雰囲気の中、みんなで記念撮影をしたり、一緒におやつも食べたりして、少しばかり表情が緩んだように見えました。メンバーからは、「あの人、楽しそうでよかった」との温かい言葉が。そんな様子をちゃんと見守っていたんですね。

コロナ禍前に地域の商店や簡易宿泊所の方などに生きがいつくりミーティングにゲストとして参加してもらい、山友会のことを紹介したり、町のことを聞いたりしたいという企画が挙がっていました。感染拡大によって頓挫していましたが、ここに来てようやく実現にむけた話し合いが再開しました。年度末にはどのような質問をするのかという話もまとまって、ゆっくりとですが企画が具体的なものになってきました。路上生活や苦しい生活を送らざるを得なかった経験を経て、仲間とのつながりを築き、やがて地域の方々と交流する機会をつくろうとされているメンバーの方々に、大きな敬意を表したいと思います。

(居場所・生きがいつくりプロジェクト 伊藤)



山谷・アート・プロジェクト



リアル写真賞 / DAIMON



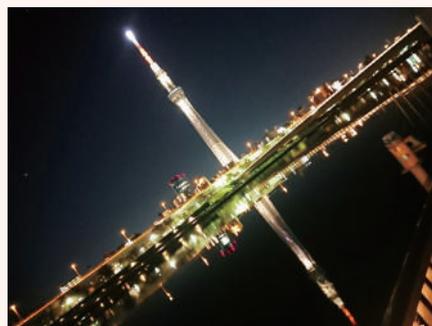
アートの力、信じま賞 / HIROYOSHI



審査員賞 / JIRO



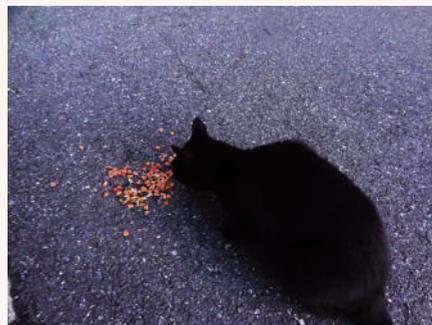
ほのぼの賞 / TOKIO



がきんちょファミリー賞 / KOJI



敢闘賞 / MASA HARU



ポルテ広場賞 / MASAO



2022年写真大賞



コスモス賞 / HIDEAKI



輝く身体ソケリッサ!賞 / TERUO



ビジュアルジャーナリスト賞 / KURAKI

「写真を通して、社会と人と繋がること」

山谷・アート・プロジェクトが掲げる1番の目標です。

2022年度は久しぶりに墨田区にある向島百花園にて撮影会を行いました。向島百花園は、様々な花や植物を見ることができる町中の静かな日本庭園です。コロナ禍ではありましたが屋外のイベントということで、ボランティアの学生さんやお世話になっている看護師さんなど、多くの方にご参加いただき、みんなで久しぶりの野外撮影会を満喫しました。

12月には2回目となる2022年度フォト・コンテストを開催し、山谷地域で活動する他のNPOやメディアなど多様な分野の方々にも審査員としてご協力いただきました。コンテストの表彰式と同時に開催した「写真部のメンバーと歩く山谷撮影ツアー」では、インターネットで参加者を募集して、興味を持ってくださった方々と交流する機会を設けることができました。

コンテストに投票してくださった皆さま、

イベントや企画にご協力くださいました皆さま、ありがとうございました。

(山谷・アート・プロジェクト 後藤 高木)

【活動実績】

- 毎月定例ミーティング及び写真観賞
- 5/9 向島百花園撮影会開催
- 7/24 イベント「ポルテこどもマルシェ」写真展示
- 11/10 訪問看護ステーションコスモス主催「コスモス秋の特別講演」津軽三味線、猿回しを鑑賞
- 11/10～第2回フォトコンテスト投票開始
- 12/23 フォトコンテスト表彰式及び「写真部のメンバーと歩く山谷撮影ツアー」開催
- 3/5 イベント「りんりんふえす」写真展示
- 3/25 桜撮影会開催(居場所・生きがいづくりプロジェクト「お花見散歩」と合同開催)

フォトコンテストの作品や写真部のメンバーが撮影した写真は、こちらからご覧いただけます。



共同墓地の運営

「死後もつながりを感じていられるように」という想いのもと、活動を通してつながりをもった、ホームレス状態にある方で無縁仏となってしまう方のための共同墓地を運営しています。2022年度末までに37名の方のご遺骨が納められました。



山友会 おじさん語録

- ある日のおじさん同士の会話「俺も最期は、山友会の墓に入れてもらおう！」
- 「それなら、もっと痩せてくれないと狭くて入れないよ」



まつりの声

5月になると、山谷にも三社祭のお囃子や神輿を担ぐ人の声がにぎやかに聞こえてきます。三社祭では「わっしょい」ではなくて、「そいや」「せいや」というかけ声が多く、前へ前へと歩もうとする江戸っ子のテンポの速さを感じさせられます。この「そいや」とは「添えや」という言葉に由来するとの説もあるようで、身体を寄り添わせて「みんなで力を合わせて神輿に乗った神様を浅草寺の観音様のもとへお運びしよう」という思いが声になったものなのかもしれません。そんな祭礼も、コロナ禍で3年間縮小しておりましたが、今年は通常通りのにぎわいが予想されています。

同様に、亡き大切な人をまつるお墓へお参りにお越しになる方も、最近、徐々に増えてきました。そんななかひと際、にぎやかだったのが山友会のお墓参りです。今年はおつくり東京ファンや訪問看護ステーションコスモスの方々と同じ日に行ったこともあり、昼過ぎから夜までお墓を訪ねる人が絶えませんでした。

先立った仲間を想って祈る時間は、身寄りの有無も、お金の有無も、歩んできた道のりのあり方も関係ありません。山谷や新宿等で身を寄せ合い、助け合って生きている仲間として、亡き大切な友に心を寄せて安寧を願うのみです。そして、その時間が遺された人たちに、いまの自己のいのちや友と過ごす時間の豊かさを思い起こさせてくれるのでしょうか。きっと亡き人たちは、にぎやかに集まる仲間たちを「添えや、添えや、仲良く添えや」と、あたたかなまなざしでご覧くださっているに違いありません。

合掌

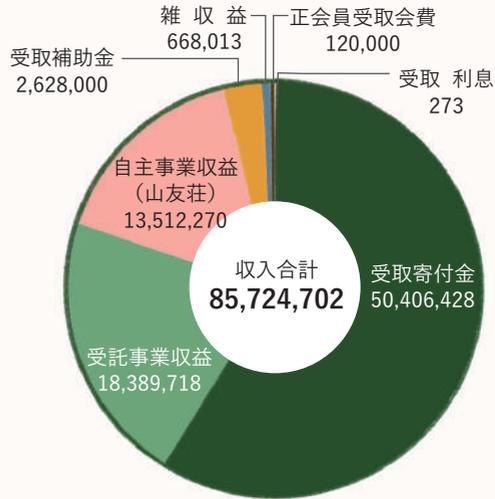


(光照院 住職 吉水岳彦)

2022年度 会計報告

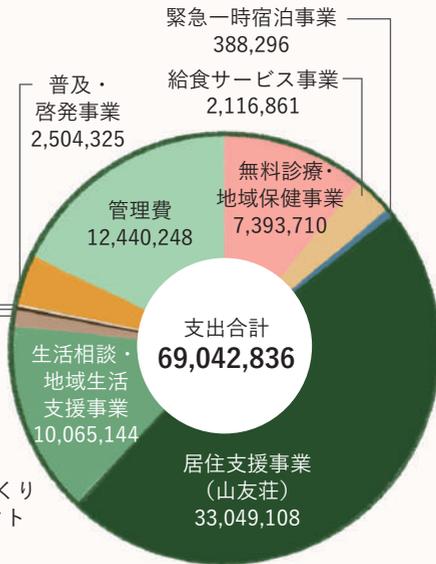
収入の部

項目	金額
受取寄付金	50,406,428
受託事業収益	18,389,718
自主事業収益 (山友荘)	13,512,270
受取補助金	2,628,000
雑収益	668,013
正会員受取会費	120,000
受取利息	273
合計	85,724,702



支出の部

項目	金額
無料診療・地域保健事業	7,393,710
給食サービス事業	2,116,861
緊急一時宿泊事業	388,296
居住支援事業 (山友荘)	33,049,108
生活相談・地域生活支援事業	10,065,144
居場所・生きがいづくりプロジェクト	792,001
山谷・アート・プロジェクト	197,833
共同墓地の維持・管理	95,310
普及・啓発事業	2,504,325
管理費	12,440,248
合計	69,042,836



共同墓地の維持・管理 95,310
 山谷・アート・プロジェクト 197,833
 居場所・生きがいづくりプロジェクト 792,001



「今は夕飯だな、美味しい夕飯だ」「うるせえ！ 食事中は黙ってろ」「はい、すみません」とひとり喋って自分で突っ込みを入れる山友荘のおじさん。

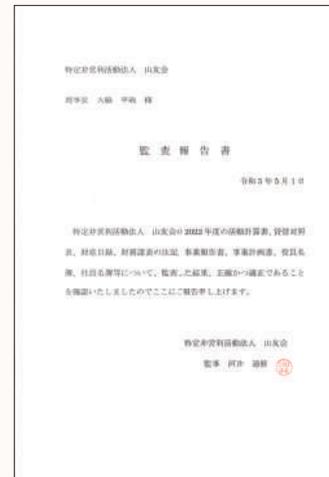
貸借対照表

特定非営利活動法人 山友会

[税込] (単位: 円)
2022年3月31日現在

《資産の部》		《負債の部》	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	501,200
現金	109,900	預り金	110,542
当座預金	59,477,361	源泉所得税	(50,542)
ゆうちょ銀行①	(44,491,702)	住民税	(60,000)
ゆうちょ銀行②	(14,985,659)	流動負債合計	611,742
普通預金	80,566,198	負債合計	611,742
みずほ銀行	(7,849,153)		
ゆうちょ銀行	(62,716,782)		
三菱UFJ銀行	(10,000,263)	《正味財産の部》	
現金・預金計	140,153,459	前期繰越正味財産	142,505,365
流動資産合計	140,153,459	当期正味財産増減額	16,681,866
		正味財産合計	159,187,231
【固定資産】			
(有形固定資産)			
土地	9,536,629		
建物	6,519,679		
建物付属設備	5		
構築物	1,116,000		
車両運搬具	1		
什器備品	3		
工具器具備品	2,360,567		
有形固定資産計	19,532,884		
(投資その他の資産)			
差入保証金	12,630		
敷金	100,000		
投資その他の資産計	112,630		
固定資産合計	19,645,514		
資産合計	159,798,973	負債及び正味財産合計	159,798,973

監査報告書



事務局 × ンバー

イベント・講演等 メディア掲載



ホームレス問題や山谷地域で起きている社会的孤立を背景にした問題を根本的に解決していくためには、多くの方々のご協力が欠かせません。ホームレス問題や山谷地域の現状、そして山友会の取り組みを普及し、問題解決に向けた参加を促進するために様々なイベントや講演活動、マスメディア等の取材への対応を行っています。

日付	イベント・講演
2022年 5月24日	東海大学医学部看護学科にて講義「社会の変化に伴う地域の健康問題と支援の実際ー山谷地域の現状と山友会の取り組みー」（看護師長 天方）
5月31日	福井県立大学 就労支援サービスにて講義「ホームレス状態の人の社会参加」（副代表 油井）
6月15日	東洋大学 社会貢献活動入門2にて講義「NPO 法人山友会の路上生活者／ホームレス支援の取り組み」（副代表 油井）
7月9日	代々木中学校にて講義「ホームレスってどんな人？」（副代表 油井）
7月24日	「ポルテ こどもマルシェ」にて山谷・アート・プロジェクトの写真展示
8月6日	2021 年度 オンライン活動報告会
9月3日	すみだ川アートラウンドラウンドテーブル ARTs × SDGs の可能性をめぐる対話と実践 隅田川を舞台に展開する SDGs プロタイピング 第一章：サーキュラー・ダイアログ vol.2 食 Food cycle にて活動報告（副代表 油井）
10月20日	第50回 日本救急医学会総会・学術集会にて報告 「孤立化・孤独化する地域における医療のこれから」（副代表 油井）
11月18日	東京アメリカンクラブ チャリティドライブ
12月9日	成城大学にて講義「キャリアの多様性と社会正義」（副代表 油井）
12月12日	日米サービスハブネットワーク Dec '22 meetings in Japan に参加（副代表 油井）
2023年 1月4日	東京更生保護施設連盟 青年部 視察
3月5日	りんりんふえす vol.10 THE BIG ISSUE 座談会「隣人と輪になって」（代表ジャンがビデオ出演）
3月8日	東京社会福祉士会 司法福祉委員会 定例会にて山谷・アート・プロジェクトについて報告（山谷・アート・プロジェクト 後藤）
3月11日	地域ケア連携をすすめる会 山谷地域の看護・介護・生活支援のお仕事説明会に運営協力

日付	メディア掲載
2022年 12月5日	調査情報デジタル 「見えない」生活困窮者ーどこに居て、なぜ可視化されないのか？ (理事 後藤広史が寄稿)
12月19日	NHK ラジオ NHK ジャーナル 特集 元路上生活者が写す写真の力 ～山谷・アート・プロジェクト～ (相談員 後藤が出演)
12月30日	NHK 総合テレビ このドキュメンタリーがヤバイ！ ノーナレ「THE LAST MILE ～ルポ・ジャン 最後の歩み」
12月31日	弁護士ドットコム 山谷の街角でカメラを構える10人の男たち 「変わりゆく俺たちの街の『今』を撮る」
2023年 1月10日	日本経済新聞 SDG s世代ー貧困層へ支援を (ボランティア 半田諒二さんのインタビュー)
1月16日	NHK サイカルジャーナル “おじさん”たちの写す世界 写真に“力”はあるか
2月17日	現代宗教 2023 特集：孤立化が進む社会と宗教のはたらき『座談会 地域ケアでつながるお寺と「支縁」団体』



●（初めて入歯を作り）装着姿を皆にお披露目して、「いい男に戻ったね！」と褒められた時に笑顔で一言。「こりゃ、ハハハ（歯歯歯）だね」

ご支援について



支援者からのメッセージ

山友会の『人と人との繋がり』を感じられる雰囲気が好きで、ボランティアとして参加し続けています。ふとした時に行ってみても、皆を温かく迎えて、他愛のない会話がある空間があります。コロナ禍において、『人と人との繋がり』が感じづらくなった世の中でも活動し続けた山友会。コロナ禍が過ぎ、今までできなかった活動がまた再開し、より活気のある場が戻ってくることを楽しみにしています。

(神山翼様)



以前、炊き出しにボランティアとして参加していました。初めはおっかなびっくりでしたが、続けて参加しているうちに、山友会の前に集まっているおじさん達と会うと「またココに来たのだな」と思うようになりました。

その後、地方に引っ越してから炊き出しに参加することはできなくなりましたが、東京で雪が降ったり、炊き出しに並ぶ人が増えていると聞いた時に、おじさんたちは元気かなと思っていました。果物を送ることやマンスリーサポーターになることで、ずっと山友会の仲間でいたいと思っています。

(和歌山梅農家 橋本恵治様)



企業・団体からのご支援

一般財団法人日本メイスン財団様より山友会クリニック薬品購入費用とシェルター宿泊費用のご支援、ILBS 国際福祉協会様より心電計購入費用のご支援、東京アメリカンクラブ様より活動費用と物品のご支援、在日米商工会議所様、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団様より活動費用のご支援をはじめ、多くの企業・団体と個人の方々よりご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

ご支援のお願い

【マンスリーサポーターに参加する】(毎月の寄付)

クレジットカード決済・口座振替のいずれかをお選びいただけます。お申込み方法などの詳細は右の QR コードから山友会ホームページ (<https://sanyukai.or.jp/monthlysupporter>) をご覧いただくか、山友会事務局までお問合せください。



【寄付をする】

ーご寄付の方法

・郵便振替をご利用の場合

00100-2-158990 加入者名：山友会

※銀行振込をご希望の方は事務局までお問い合わせください。

・クレジットカードをご利用の場合

<https://sanyukai.or.jp/donation>

上記 URL より、クレジット決済システムを利用してご寄付ください。

右の QR コードからもアクセスいただけます。

※寄付金受領証明書は1月1日～12月31日までの1年間の合計寄付金額を記載し、翌年1月～2月ごろにお届けいたします。

恐れ入りますが、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。



【物品でのご支援をお考えの方へ】

その時に必要なものを山友会のホームページに掲載しておりますので、そちらをご覧ください。右の QR コードからもアクセスいただけます。

また、大変お手数ですが、発送前にご連絡いただけますと幸いです。

なお、薬品全般に関しては、市販薬、個人に処方されたものを含め、受け取ることができませんので、何卒ご了承ください。





NPO
山友会
特定非営利活動法人
SANYUKAI

特定非営利活動法人 山友会

〒111-0022 東京都台東区清川 2-32-8

TEL : 03-3874-1269 FAX: 03-3874-1332

MAIL : info@sanyukai.or.jp

WEB : https://sanyukai.or.jp